R18
For Adult only.
魔の女
オニノショウジョ
紙切ればさみ

私は鬼だ

それは種族がそうだからとか
関係なく

私の存在が私自身で
鬼だと思っている

種族の意味ではない鬼
だと言うなれば

どう言った意味の
鬼なのかは説明し難い

当たり前に、私の中で鬼とは

種族の意味でしか
知らないのだから

けれど

今の私を形容するなれば
それはきっと

――『鬼』――

が正しいのだろうと思う

意味として分からないのに
変な事だ

理解出来ていないのに
正しいと思ってしまう

……いや
理解していないなんて
言うのは嘘だろう

私は自分自身
騙せはしないのだ

鬼の意味を理解して
私は私をそう呼ぶ

そっ……

だって……

スバルくん
レムがずっと
側にいますよ

事が起きたのは2日前

私はその現場を直接
見たわけではないので

人からの聞き伝えでしか
分からない

ただ、その話を聞いた時の私は
今、思い出しても
なんと醜いものだろうと思う

スバルくんが練兵場で大怪我を負い
エミリア様と仲違いされたと聞いた

どうしてスバルくんが練兵場に
行ったのかも詳しく理由を
聞いてはいない

きっと問いかければ
現在、住まいを借して頂いている
クルシュ様ならば教えて下さるだろう

誠実を体現した様な方だから…

しかし私は答えを望まなかった

もちろんスバルくんが大怪我を
した事に動揺しなかったわけではない

スバルくん

おろ

おろ

心配したに決まっている

ただ。その後の事は……

レムにとって笑みを
浮かべてしまう事
だったから…

スバルくん
まだ起きていますか？

コンコン

ん～起きてるよ
ガチャ
キィ…
スバルくんはいつもの様に
笑顔をでレムを迎え入れてくれた
現在、時刻は22時を過ぎている
どうした？
こんな時間に
にっ
普段であればもう
就寝しているところだが
今日はまだ寝ようとは
思えなかった
いえ、何だか寝付けなくて……
なのでスバルくんと
お話したいと思ったんですが
駄目……ですか？

いいよ

あの日から
スバルくんは変わった

心を傷付けられて
心を壊して

見ているのが辛くなる程
スバルくんは憔悴しきっていった

原因は身体の傷と心の傷

どちらもレムは
詳しくは知らない

ただ心の傷を付けた人に
レムは心の底から
感謝を述べたかった

—2日前—

レム……スバルの事よろしくね

畏まりましたエミリア様

ガラガラ

どこか浮かない表情を浮かべていたエミリア様だったがその原因を作った事に後悔しているのか心配しているのかは分からない

ただ

今レムが抱いている感情を悟られまいと、頭を下げてエミリア様を見送る

見送った後に
その部屋を訪ねると

部屋の中で
スバルくんは呆然と
していた

聞いていた通りだ

レムが入ってきた事にも
気付かずに

虚ろな瞳で手に掴んだ
物を見つめている

エミリア様の外套だ

その光景に胸が痛くなるが
同時に嬉しいという
感情もあった

……いや、胸が痛くなったのは
ほんの一瞬だけ

大多数は喜んでしまったのだ

スバルくん
お怪我の具合は
いかがですか？

……レムか
特に何も……

問いかけに一瞬反応はするが、会話を続けたくないように思えた

仮に反対の立場ならレムだってそうする

ただ、ここで退いてしまっては意味がない

レムはずっとお側にいます

そっと手を重ねてささやく

離れるわけがない
離れられるわけがない

レムにとってスバルくんは英雄なのだ

凍っていた時間を溶かしてくれた唯一の人なのだから

きゅっ

スバルくんがレムの事を見放しても逆は絶対にあり得ない

それ程までにスバルくんが心の中を埋め尽くしているのだ

そして囁いた言葉が正解だとレムは確信する

おれ……おれ……

はい

瞳に涙をいっぱいに浮かべて
スバルくんは嗚咽を漏らす

レムはそれをただ静かに
相槌を入れて聞くだけ

それだけでいいのだ
それだけでスバルくんは
心を開いてくれる

人は憔悴し、拠り所を探している時に
優しい言葉を掛ければ
その人を必要としはじめる

だからレムはスバルくんを
心配するフリをして話を聞けばいい

何とも醜悪な事だろう

けれど

これを悪びれるつもりは
毛頭ない

だってそうでしょう？
心配しているのは事実なのだから
ただその向いている方向が違うだけ

どうしたら良かったのかな…

おれ……本当にエミリアの為を思って……

言葉を話すスバルくんの姿は弱々しく顔を俯かせて涙を溢している

ギュッ…

重ねていた手は離れないように強く握り締められていた

後もう少しだ

スバルくんは頑張りました

けど……

もう休んでも良いんじゃないですか？

これでスバルくんは堕ちる

……レム？

……もう……

頑張らなくて良いんです

この日から、スバルくんがレムに接する時の態度が大きく変わった

レムー

レムー散歩いかないか？

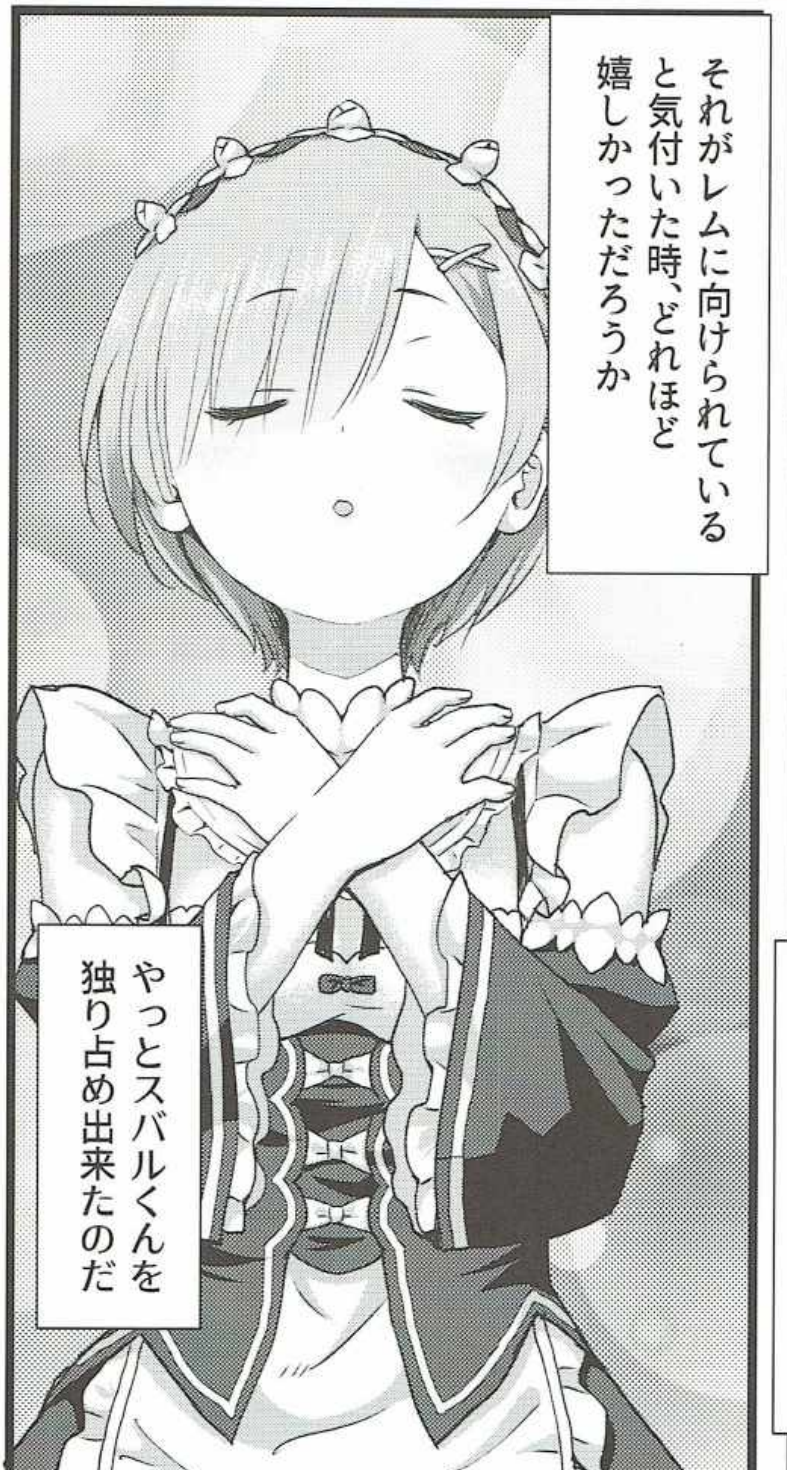
レムこれおいしいな

レムー

具体的に言えばスバルくんの拠り所になれたのだと思う

何処に行くにも必ず一緒に行くし話しているスバルくんの表情がレムの求めていた物になっていた

以前はエミリア様だけに見せていた特別な笑顔…



それがレムに向けられていると気付いた時、どれほど嬉しかっただろうか

やっとスバルくんを独り占め出来たのだ

ロズワール様の邸にいた時は本当に辛かった

姉様に。

ベアトリス様に。

エミリア様に。

レムは嫉妬していた

あの朝、微笑みながら未来を語りたいと言ってくれたのに、スバルくんはレムよりもエミリア様と接する事が多かった

ベアトリス様とも遊んでいる時間が増えて

ムキーっ

バタバタ

姉様とも話す機会が増えて

ふかじょよ

ほしければ3回まわってワンといいなさい

それは本来喜ばしい事なのに素直にそれを喜ぶことが出来なかった

本当に嫌な性格をしていると思うけれど、もうそんな自己嫌悪に陥る必要はどこにも無くなった

スバルくんはレムに堕ちレムとスバルくんは決して離れる事のない契りを結ぶのだ

だから過程に苛まれるよりも笑顔で応えよう——

そして…
いつものように雑談をしていると
スバルくんは空気を
感じ取ってくれているのか

表情に柔らかさが
増している気がした

これからレムが言うであろう事を
分かっているのかもしれない

そう考えると
とても恥ずかしい…

それで、ですねスバルくん
その……あの……

ドキ

うん

ドキ

レムを……

ドキ

ドキ

ゴクリ

レムを愛して
くださいませんか？

あの、そのまだスバルくんがレムの事を好きじゃなくてもいいんですエミリア様の事がまだ忘れられないっていうのも分かりますし、今すぐ忘れるのは無理かもですけど、でもでもレムはスバルくんが大好きですし出来たらレムの事もエミリア様の半分…いえ10分の1でもレムを好きな気持ちがあるのでしたら…どうか…お願

レム…

ありがとな…俺も…レムが好きだ

スバルくん・・・！

ドキ

ドキ

えっとさまずはどうしたらいいんだ？

もう～スバルくん？　女の子にやり方聞いちゃダメなんですよ？

ピクッ

う～ん

はっ

パッ

わ、わるい・・・

スバルくんの少し困った顔を見るのも嫌いじゃないけど仕方ない

スバルくん

ん……

ちゅう

ぢゅる

目を閉じて全身の神経を
唇に集めてゆっくりと動かす

レロ

レロ

ぷはぁ

舌を絡めて唾液を交わし
飽きる程に唇を重ねた

キスでふやけた唇を
もう一度スバルくんと重ねると
慣れたのか、今度はスバルくんの
方から舌を絡めに来た

レム…

スバルくん……

ざらついた感覚がレムの舌を弄り
吸っては舐めて
心地いい感触を与えてくれる

えっと、この次って……

まずは服の上から触ってください

初めは優しく触ってくださいね

少しずつ強くしてもらえれば

ドキ

不安そうな表情を浮かべているから和らぐように微笑んで見せる

スバルくんは恐る恐るレムの胸に手を伸ばす

ムニュ

あっ♡

おぉ……

もみ

もみ

ふっ

もみ

ふっ

もみ

んっ♡

んっ♡

こねこね

さわ さわ
すげーやわらかい…
ゴクリ
えい
ギュッ
んんっ！

ご、ごめん 痛かったか？
パッ
平気です 気持ち良かった ですから、つい
本当は少しだけ痛みを感じた
でもそれは幸せな痛みだ
それに気持ち良かったのも
事実だし

するとスバルくんは
安堵したため息を吐いて
また胸を弄り始める
あっ♡
くにくに
ただその先の進み方が
分からないからか
スバルくんは
胸から手を動かそうとしない

んっ♡
あ♡
じゅん…
むわっ
ス、スバルくん……
レムは下の方も
切なくて…
お、おぅ
はしたなく脚を開いて
自分の指で入り口を広げる
スバルくん……
はやくぅ……
はぁ
はぁ
…
自分で恥部を見せている
官能的行動に、鼓動は一層早まる
早く弄って欲しいと思う反面
初めて触られるという
恥じらいで葛藤する
ふー
ふー
ん…♡
スバルくんは女性器を見るのが
初めての様で、興奮すると同時に
どうすれば良いのか分からない
ようだった

中指を爪を立てない様に入れて貰えれば大丈夫ですから…
わ、分かったレム、痛かったら直ぐに言ってくれよ？
んっ……
ぷぷぷ
壊さぬ様に。汚さぬ様に。丁寧に秘部をまさぐる
ぢゅぷぢゅぷ
くりっ
あぁ♡
！
そこは…
びくん
びくん

あっ…んぅ…

スバルくん……んん

はぁ

はぁ

レム気持ちいいか？

あっそこはダメっんんんん♡

薄紅色に染まっている頬を見てスバルくんは安心した様に胸を撫で下ろした

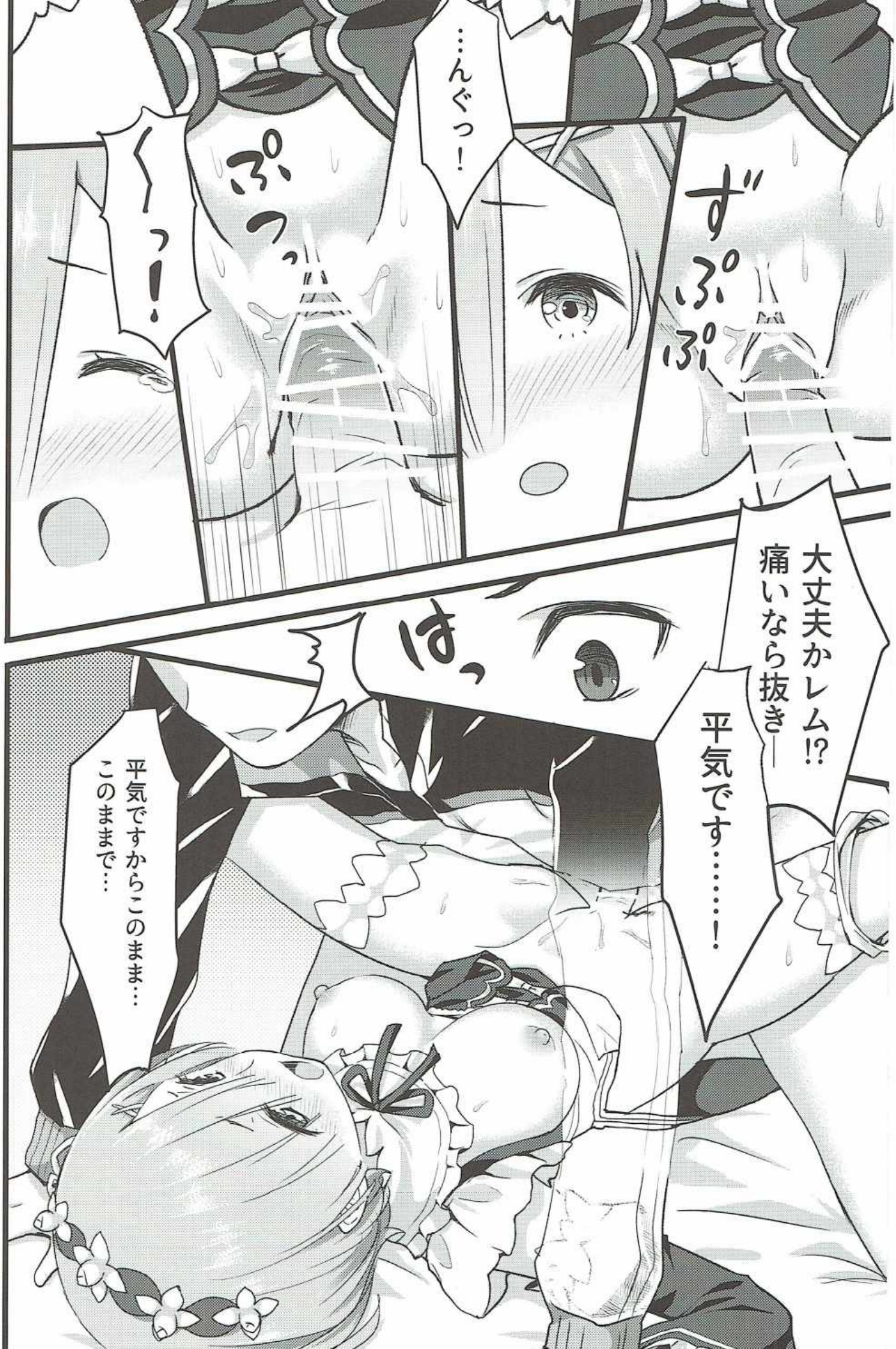
はぁ

レムをきちんと気持ち良くさせれてるのかと不安だったのだろう

そ、そしたらそろそろ平気か？

そんなに不安がらなくてもレムはスバルくんからの愛撫であれば隠し通す事も出来ない程に感じてしまう

はい……どうぞ……


ずぷぷ
…んぐっ！
ぷっっ
くっ！
はっ
大丈夫かレム!?
痛いなら抜き―
平気です……！
平気ですからこのまま…
このままで…

本当に大丈…

スッ

んっ……

ちゅる……
んん……ちゅう

ちゅ

レムはスバルくんの全てを
受け入れる様にキスをする

レロ

レロ

ぢゅうう

行き交う唾液と、唇の粘膜が混ざり
身体に走った痛みを忘れさせてくれる

もう動いても
平気です……

ギチッ

ギチッ

ここん♡
あっ♡
ヌプププ…
あっ♡
ずずずず…
はぁぁぁ♡
ズーン
ゴッ
ぐっ!!
あっ♡
あ♡
あ〜〜♡
もっと、もっとスバルくんにはレムを愛して欲しい
ぢゅぽ
ぢゅぽ
レムの中にスバルくんの全てを注ぎ込んで欲しい

あん！スバルくん！
ぐぽっ
ぐぽっ
んぐぅ！んん！

はしたなく喘ぎ、快楽に身を任せていると一瞬だけ我に返って思い出す
ぐぽっ♡
ぐぽっ♡
そう言えばここはクルシュ様の邸だ
もし気づかれたらスバルくんに迷惑が…
んっ♡
こ、声我慢しなきゃ…
んっ♡

ほら、気持ちいいか？
あっ♡
ぐり
ず…ぐり
ぶーっ
ぶーっ
スバルくんからの急激な攻めに興奮状態の身体は震える
ん♡〜!!!

レム
はぁ…はぁ…
可愛いぞ

あっ♡
あっ♡

だめ…！
声が…っ！

レム、レム！
おれ…もう…！

びゅっ

スバルくん？
…んっ！

ぶるっ

ぜュルッ

びゅく

びゅく

…スバルくん？

はぁ……はぁ……
すまん
1人だけ先に

いえ、そんな
レムの中で出して
もらえて嬉しいです

ぽぉ

…もしかしたら
スバルくんとレムとの間に
切っても切れない絆が
出来るかもしれない

……何と醜いのだろうか
自分で自分の考えに
背筋が凍る思いがした

スバルくんは決して
そんな後ろめたい気持ちで
してくれた訳ではないのに……

レムはスバルくんの
何を見ていたのだろう
本当に……私は『鬼』なんだ

ふふっ。スバルくん？
レムはまだ満足してませんよ？

レム……

まずはおちんちんを
キレイにしますね

ジッとしててくださいね
……れろ……ちゅう

うぅっ！

鬼ならば鬼らしく振舞って
みせよう
スバルくんの全てはレムに
レムの全てはスバルくんに

うぅ……！

ぐぅぅぅ……！

…まだ我慢してくださいねふふふ
うぐっ……うぁっ
ビク
ビク
じゅぽぽ♡
スバルくん……んぐ…んぶっ…
じゅぽぽ♡
レ、レム俺…もう
仕方ないですね…ん…
ちゅぷ
うぅあぁぁ…
ぢゅぷぷ♡
ぢゅぷぷ♡
ふふ…スバルくん？レムはまだ満足してないって言いましたよ？
ちゅぷ
ちゃんとレムも気持ちよくしてくださいね？
ちゅぷ

はぁ
はぁ
ガク
ガク
ぷぷぷ
スバルくん…
お口を開けてください
とろぉ
キュウウ
んあっ♡
おくぅ♡
おくぅ♡
奥まで入りましたね…
スバルくん……んんっ……
レムが……動きますから

あっ♡
あっ♡
あっ♡
ほら、ほら
スバルくん！
スバルくん！
ぐぽぽ
ぐぽぽ
声を出しても良いんですよ？
ちゅぱ
ヒュル
あがっ！ぐぅ！……っあ！
ぐっ…うぐっ……
れ、レム！
はい…！
スバルくんの
レムです！
んっ…あっ…！
スバルくん！
スバルくん！
ぐちゅぐちゅ
ぐちゅぐちゅ
ぐちゅぐちゅ

れ、れむ……おれ、もう！

はい、よく頑張りました……！
レムも…ですから2人で…
一緒に……んっ、んっ！

ぐっ、うっ、うぁぁぁ!!

あっ♡あっ♡あっ♡
ぁぁぁぁぁぁ!!

これでレムと
スバルくんの間には…

あぁっ♡
ぁぁ♡
ぁぁぁぁぁ♡
ビュッ
ビュッ
ビュッ

翌朝

シャッ

そ～

すぅ
す～

ふふふ
スバルくんは寝顔も
素敵です

えぃ

ムニャ
ムニャ

もしスバルくんとの
子供を授かったら
こんな感じなんでしょうか

んっ……
ごめんなさい
起こしてしまいましたか？
ううん。大丈夫だ
夢を……
…見ていたんだ
このままさ
レムの中にその…
俺との子供が出来て、
王戦とかそうゆう事と
一切関係無い場所で、
家族仲良く平和に暮らしていく
そんな夢だ
素敵な夢ですね

ねぇ、スバルくん？

す～

は～

キッ

スバルくんに聞いて欲しい事あるんです

ギュッ

レムと逃げましょう どこまでも

そうすればスバルくんの夢は叶います

大丈夫です

レムがずっと… ずっとスバルくんのお側にいますから

…
そう……だな
もう…疲れたしな
そうですよ
スバルくんはずっと
頑張ってました
もう休んでも良いんです
レムだけがずっと
スバルくんの味方でいますから
きゅ…
だから
あぁ…
俺の全てはレムだけに捧げる
これからよろしく頼むな、レム
…はいっ！

スバルくん
準備は平気ですか？

おぅ。大丈夫
っても意外と
冷え込むのね

まぁ冷えないように
くっつけば平気だな

夜も明けきらない時間に
買ってきた竜車に乗り込み手綱を握る

も～スバルくんは～

しっかり抱き締めてくれてないと
大変ですからね？

まかせとけって

さぁ、行きましょう
どこまでもずっと一緒です

レムに後悔は微塵もなく
あるのは未来に向かって伸びている希望だけ

私は鬼だ。
種族の鬼とは全く別の意味で
私は私自身をそう呼称する
全てを捨ててでも選んだ
この未来をくれた
あの人には感謝しかない
スバルくんをレムに任せてくれて、
スバルくんの拠り所になれた事を
今なら大手を振ってこう言えるだろう
『エミリア様……
ありがとうございます』
と

こんにちは。やすゆきです。

お手にとって頂き誠にありがとうございます。

今回の話はエミリアと仲違いした直後のお話でして、

エミリア好きにはちょっと厳しい内容です。

レムの違う形のハッピーエンドになってたらいいな～と思います

ょうぃ ょレムりんを育てる話も描きたいなーと思いつつ、未定です！

次回は多分５月のコミ１、コミティアあたりだと思います

それではまた次回お会いできれば幸いです！

■発行■
紙切ればさみ
■執筆者■
やすゆき
博士
■発効日■
2016/12/31
■印刷■
コーシン出版
■WEbサイト■
http://kamikire.jp/
■ツイッター■
@yasu00kamiki
■無断転載・配布を禁じます■
もしアップロードされているのを発見されましたら
下記アドレスまで該当URLを添えてご一報頂けますと幸いです。
■こちらの本に関する連絡先■
yasuyuki@kamikire.jp

COMIC MARKET 91 紙切ればさみ